

# 教育シラバス

syllabus

(授業計画)

介護福祉学科

学校法人 阿弥陀寺教育学園

国際医療福祉専門学校七尾校

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） ☆介護倫理		授業の種類 (講義) 演習・実習)	授業担当者 大貫 真二
授業の回数 15	時間数（単位数） 30(2)	配当学年・時期 1年次前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 人間の理解を基礎として人間としての尊厳と保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護計画における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 福祉理念の歴史の変遷を学ぶことを通し、人間の尊厳・人格尊重及び権利擁護の考え方を養う。また、本人主体の観点から自立の考え方、自立生活の理解を通しその生活を支える必要性を理解する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 人権思想・福祉理念の歴史の変遷を理解し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を身につける。人間にとっての自立の意味と、本人主体の観点から尊厳の保持や自己決定の考え方を理解する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 人間の尊厳</li> <li>2 人間の自立、自律</li> <li>3 人権と尊厳</li> <li>4 専門職能団体もつ役割</li> <li>5 職業倫理や生命倫理の視点</li> <li>6 福祉関係や医療関係の職能団体の倫理綱領</li> <li>7 QOLの考え方</li> <li>8 ノーマライゼーション</li> <li>9 介護における専門職能団体としての意義、目的</li> <li>10 介護における専門職能団体の活動</li> <li>11 介護実践における倫理</li> <li>12 日本介護福祉士会倫理綱領</li> <li>13 尊厳を支える介護とは</li> <li>14 尊厳の保持と自立支援</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
<p>最新・介護福祉士養成講座 第1巻「人間の理解」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発刊</p> <p>最新・介護福祉士養成講座 第4巻「介護の基本Ⅱ」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発刊</p>		<p>定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。 100点満点の定期試験を実施し、60点以上を単位認定の目安とする。</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) ☆人間関係論		授業の種類 (講義) 演習・実習)	授業担当者 井上 明浩
授業の回数 8	時間数 (単位数) 15 (1)	配当学年・時期 1年次後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を養うための学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護人としての倫理を理解し、より良い人間関係を築くための知識を学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 福祉サービスを利用する人々と円滑なコミュニケーションの人間関係の基礎を理解し、適切な援助を実践する力を身につける。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 共振の技術 (自己紹介)</li> <li>2 要約する力と質問する力</li> <li>3 話す力</li> <li>4 コミュニケーションとリズム</li> <li>5 コミュニケーションと身体</li> <li>6 集団でのコミュニケーション</li> <li>7 ディスカッションの技術</li> <li>8 ディスカッション</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
<p>最新・介護福祉士養成講座 第1巻「人間の理解」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発行</p> <p>最新・介護福祉士養成講座 第5巻「コミュニケーション技術」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発行</p>		<p>定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。</p> <p>100点満点の定期試験を実施し、60点以上を単位認定の目安とする。</p>	

授 業 概 要			
授業のタイトル（科目名） ☆コミュニケーション技術概論		授業の種類 (講義) 演習・実習	授業担当者 大貫 真二
授業の回数 8	時間数（単位数） 15 (1)	配当学年・時期 1 年次前期・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する。介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 人間関係とコミュニケーションの基礎では、自己理解、他者理解をもとに対人関係とコミュニケーションについて理解する。また、コミュニケーションの技法の基礎を学び、組織におけるコミュニケーションについて理解する。チームマネジメントでは、ヒューマンサービスとしての介護サービスの特徴を踏まえ、チーム運営の基本や人材育成の管理法の基礎を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を理解する。介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用等の人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップ等、チーム運営の基本を理解する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 人間関係の形成</li> <li>2 人間関係と心理（自己覚知、他者理解、ラポール、自己開示）</li> <li>3 人間関係と心理（パーソナリティ、グループダイナミクスの活用）</li> <li>4 対人関係とコミュニケーション（意義、目的、特徴、過程）</li> <li>5 対人関係とコミュニケーション（アサーティブネス、対人関係とストレス）</li> <li>6 コミュニケーション技法の基礎（物理的、心理的距離の理解）</li> <li>7 コミュニケーション技法の基礎（受容、共感、傾聴）</li> <li>8 コミュニケーション技法の基礎（相談面接の基礎：バーステックの原則など）</li> <li>9 コミュニケーション技法の基礎（言語的・非言語的コミュニケーション）</li> <li>10 組織におけるコミュニケーション（情報の流れとネットワーク）</li> <li>11 チームマネジメント</li> <li>12 介護サービスの特性と求められるマネジメント</li> <li>13 ヒューマンサービスの特徴・特性</li> <li>14 倫理・専門性を持つことの意義</li> <li>15 組織と運営管理（福祉サービスの組織の機能と役割）</li> <li>16 組織と運営管理（組織の構造と管理）</li> <li>17 組織と運営管理（コンプライアンスの遵守）</li> <li>18 チーム運営の基本（チームの機能と構成）</li> <li>19 チーム運営の基本（リーダーシップ、フォロワーシップ）</li> <li>20 チーム運営の基本（リーダーの機能と役割）</li> <li>21 チーム運営の基本（業務課題の発見と解決の過程：PDCA）</li> <li>22 人材の育成と管理（教育体系、スーパービジョン、キャリア支援・開発）</li> <li>23 人材の育成と管理（モチベーションマネジメント）</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
<p>最新・介護福祉士養成講座 第1巻「人間の理解」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発刊</p> <p>最新・介護福祉士養成講座 第5巻「コミュニケーション技術」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発刊</p>		<p>定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。</p>	

授 業 概 要			
授業のタイトル（科目名） ☆保健医療福祉概論		授業の種類 (講義)・演習・実習	授業担当者 大貫 真二
授業の回数 15	時間数（単位数） 30(2)	配当学年・時期 1年次後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点及び専門職としての基盤となる倫理観を養い、コミュニケーションやチームマネジメントの基礎的な知識を身につける。 対象者の生活を地域で支えていく観点から、地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識を身につける。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 生活の基本機能とライフサイクルの変化及び家族、社会、組織、地域社会の概念を理解し、地域社会における生活支援について学び、地域共生社会の実現に向けた制度や施策など介護実践に関連する諸制度にどのようなものがあるかを具体的に学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、その実現のため制度・施策を理解する。 高齢者福祉制度、障害者福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容から現状と課題を理解する。 人間の尊厳と自立にかかわる権利擁護や個人情報保護等、介護実践に関連する制度・施策を理解する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 福祉の理念及び倫理観、尊厳の保持や権利擁護</li> <li>2 チームケア、チームマネジメント</li> <li>3 地域福祉の理念及び推進</li> <li>4 地域共生社会の理念（ソーシャル・インクルージョン）</li> <li>5 地域共生社会の実現に向けた取り組み</li> <li>6 地域包括ケアの理念、地域包括ケアシステム</li> <li>7 高齢者福祉の動向（高齢者の現状、支援者の状況）</li> <li>8 高齢者福祉に関連する法律と制度（概要、歴史的変遷）</li> <li>9 介護保険法（目的、保険者・国・都道府県の役割、被保険者）</li> <li>10 介護保険法（財源と利用者負担、要認定、保険給付サービス）</li> <li>11 介護保険法（サービス事業者、施設）</li> <li>12 地域支援事業、地域包括支援センター、地域ケア会議</li> <li>13 介護保険制度におけるケアマネジメントと介護支援専門員</li> <li>14 障害者福祉と障害者保健福祉制度（動向、法的定義、法律と制度）</li> <li>15 介護実践に関連する諸制度（バリアフリー、保健医療、生活保護制度）</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新・介護福祉士養成講座 第2巻「社会の理解」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発行		定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。 100点満点の定期試験を実施し、60点以上を単位認定の目安とする。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) ☆生活と福祉		授業の種類 (講義) 演習・実習)	授業担当者 小林 直樹
授業の回数 8	時間数 (単位数) 15 (1)	配当学年・時期 2年次前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 個人が自立した生活を営むということを理解するため個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会のかかわりや、自助から公助に至る過程について理解するための能力を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 生活の構造、家族、地域社会と個人、人と社会、組織、ライフスタイルの変化、生活支援と福祉の体系について学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 家族あるいは地域社会が、個人とどうつながっているのか、そして参加する組織や集団とのかかわりを考え変化するライフスタイルについて、データをもとに学ぶことで生活支援や福祉の体系を理解する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生活の基本機能 (生活の概念、ライフステージ・サイクル・コース)</li> <li>2 ライフスタイルの変化 (雇用形態の変化、少子化、健康寿命の延長、ワークライフ、生涯学習)</li> <li>3 家族 (家族の概念、構造と形態、機能や役割、多様性)</li> <li>4 社会、組織の概念や役割、ソーシャルネットワーク</li> <li>5 地域社会の概念、コミュニティの概念</li> <li>6 地域社会の集団、組織</li> <li>7 地域社会における生活支援 (ソーシャルサポート、福祉の考え方)</li> <li>8 地域社会における生活支援 (自助・互助・共助・公助)</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新・介護福祉士養成講座 第2巻「社会の理解」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発行		定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。 100点満点の定期試験を実施し、60点以上を単位認定の目安とする。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） ☆社会保障制度論		授業の種類 (講義) 演習・実習)	授業担当者 宮本 靖也
授業の回数 8	時間数（単位数） 15 (1)	配当学年・時期 2年次前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 我が国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、仕組みについて理解する能力を習得する。 介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者自立支援制度について、介護実践に必要な観点から社会保障の制度・施策についての基礎的知識を習得する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 基本的社会保障の考え方、社会保障制度の発達、仕組み、現代社会と社会保障制度について学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 社会保障の役割と意義、理念と範囲、社会保障の発展の歴史、制度全体の仕組み、現代社会における位置づけと今後の課題について理解する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会保障の基本（役割、意義、目的、範囲）と現状および課題</li> <li>2 日本の社会保障制度の発達（社会保障の基盤、基本的な考え方、憲法との関係）</li> <li>3 日本の社会保障制度の発達（国民皆保険、国民皆年金、社会福祉法）</li> <li>4 社会保障制度のしくみ（社会保障の行政組織、財源）</li> <li>5 社会保障制度のしくみ（社会扶助、社会福祉、公衆衛生）</li> <li>6 現代社会における社会保障制度の課題（人口動態、少子高齢化、社会保障の給付）</li> <li>7 現代社会における社会保障制度の課題（地方分権、社会保障構造改革、医療と介護保険）</li> <li>8 まとめ</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉養成講座 第2巻「社会の理解」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発行		[単位認定の方法及び基準] 定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。 100点満点の定期試験を実施し、60点以上を単位認定の目安とする。	

授 業 概 要			
授業のタイトル (科目名) ☆運動科学		授業の種類 (講義) 演習・実習)	授業担当者 井上 明浩
授業の回数 15	時間数 (単位数) 30(2)	配当学年・時期 1年次前期	必修・選択 必修選択
<p>[授業の目的・ねらい] 運動とからだの基本的仕組みについて知識を習得する</p> <p>[授業全体の内容の概要] 人間にとっての運動の必要性和からだへの働きかけの能力について学習する</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ] 運動に関する知識、方法を科学的な事実を通して理解する</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 運動とは</li> <li>2 運動の意味・必要性</li> <li>3 からだの動く仕組み</li> <li>4 運動をした時の変化</li> <li>5 自己管理</li> <li>6 運動の意味選択</li> <li>7 適正な運動と強さ</li> <li>8 運動量の考え方</li> <li>9 体力アップ</li> <li>10 スキルアップの方法 (1)</li> <li>11 スキルアップの方法 (2)</li> <li>12 基本的な運動におけるスキルポイント (1)</li> <li>13 基本的な運動におけるスキルポイント (2)</li> <li>14 運動における休養、栄養について</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
障害者スポーツ指導教本 初級・中級<改訂版> 第4刷 ぎょうせい 2012発行		定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) ボランティア論		授業の種類 (講義) 演習・実習)	授業担当者 由久保 弘明
授業の回数 8	時間数 (単位数) 15 (1)	配当学年・時期 1年次前期	必修・選択 必修選択
<p>[授業の目的・ねらい] ボランティアに関する基本的な知識を深め、医療・介護におけるその役割と意義を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ボランティア活動に参加する場合とそれを受け入れる場合の双方の立場から、必要な教育や組織運営のあり方などを学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ] 医療・介護におけるボランティアの役割と意義が理解できる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ボランティアとは</li> <li>2 様々なボランティア活動の内容</li> <li>3 ボランティア活動の心がまえ</li> <li>4 個人情報保護法について</li> <li>5 ボランティア活動の実践 (1)</li> <li>6 ボランティア活動の実践 (2)</li> <li>7 ボランティア活動の実践 (3)</li> <li>8 ボランティア活動の実践 (4)</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
教材を適宜配布する ボランティア論 ミネルヴァ書房 2009年発刊		定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。	

授 業 概 要			
授業のタイトル (科目名) ☆リハビリテーション概論		授業の種類 (講義) 演習・実習)	授業担当者 大角 幸治
授業の回数 8	時間数 (単位数) 15 (1)	配当学年・時期 2年次前期	必修・選択 必修選択
<p>[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考えかたを理解し、「介護を必要とする人」をリハビリテーション観点から捉える能力を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護におけるチームケアなどにおいて次の項目を中心に学習する。 ①自立にむけた介護②介護のはたらきと基本的視点③リハビリテーションと介護</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ] 介護実践におけるリハビリテーションの考え方を理解し、専門職との連携などについて理解する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「自立に向けた介護」のための介護職の役割</li> <li>2 「生活支援」としての介護とは</li> <li>3 身体介護とその意義</li> <li>4 QOLの考え方</li> <li>5 ICFの考え方</li> <li>6 介護実践におけるリハビリテーションの考え方</li> <li>7 リハビリテーション専門職との連携</li> <li>8 まとめ</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新・介護福祉士養成講座 第3巻「介護の基本 I」中央法規 2019年発刊 日本ケアワーク研究所監「見てよくわかるリハビリテーション介護技術 新訂版」一橋出版 2007年、山本 和儀「リハビリテーション介護福祉論」医歯薬出版 1996年		定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。 100点満点の定期試験を実施し、60点以上を単位認定の目安とする。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 情報科学		授業の種類 (講義) 演習・実習)	授業担当者 大角 幸治
授業の回数 15	時間数 (単位数) 30 (2)	配当学年・時期 1年次前期	必修・選択 必修選択
<p>[授業の目的・ねらい] 情報機器の操作やその活用能力を身に付けると共に、情報の活用の仕方や処理の考え方などを習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] パーソナルコンピュータの基本的な操作やワード、エクセル、パワーポイント、インターネットの活用方法を学び、情報を処理・表現する学習を行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 基本的な文書の作成、表計算、プレゼンテーション、インターネットについて理解する。 情報機器の操作やその活用方法を理解する。情報処理を行い、表現し、伝えることができる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 サイバー犯罪対策DVD視聴</li> <li>3 パソコンの基本設定、学内無線LANの設定</li> <li>4 インターネットの使い方</li> <li>5 電子メールの使い方</li> <li>6 ワードでの文書・レポートの作成①</li> <li>7 ワードでの文書・レポートの作成②</li> <li>8 ワードでの文書・レポートの作成③</li> <li>9 エクセルでのデータ処理、統計処理①</li> <li>10 エクセルでのデータ処理、統計処理②</li> <li>11 エクセルでのデータ処理、統計処理③</li> <li>12 パワーポイントで資料を作る①</li> <li>13 パワーポイントで資料を作る②</li> <li>14 パワーポイントで資料を作る③</li> <li>15 文章・表の作成</li> </ol> <p>*授業では各自のノートパソコンを持参すること。</p>			
[使用テキスト・参考文献] 特になし。資料を授業で配布する。 できるWord・Excel・PowerPoint2010		[単位認定の方法及び基準] 定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） ☆福祉住環境論		授業の種類 (講義) 演習・実習)	授業担当者 花田 真維子 / 宮下 榮子
授業の回数 15	時間数（単位数） 30 (2)	配当学年・時期 2年次後期	必修・選択 必修選択
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>福祉住環境は障害者・高齢者だけでなく、すべての人々が健康であり続けるため、良好な物的環境と心的環境の双方を創造しなければならない。 本講義では、福祉の理念を理解し、背景となる社会的・経済的動向や福祉施策の変遷を把握する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>安全で快適な住環境を実現するためのコンセプトを学習する。また、建物や備品などハードに対する環境づくりだけでなく、人との関わりによるソフトの環境づくりを考察して学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>障害者・高齢者等に関する我が国の福祉施策の変遷を把握することを通して、福祉の理念を理解する。障害者・高齢者等がこれら施策によって建てられた居住施設に暮らす快適な住環境はどのように保障されるべきかを考える。 同時に在宅で暮らすためのより良好な住環境についても学習し理解を深める。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 多文化共生、国際理解など、様々な文化や価値観を背景とする人々が共生する社会の理解</li> <li>2 健康と自立、在宅生活の維持とケアサービス</li> <li>3 バリアフリーとユニバーサルデザインの考え方</li> <li>4 生活の中の問題点と用具の活用</li> <li>5 安全・快適な住まいの整備</li> <li>6 ライフスタイルの多様化と住まい</li> <li>7 安心できる住生活支援と街づくり</li> <li>8 高齢者・障害者の特性・疾患</li> <li>9 高齢者・障害者と福祉住環境整備</li> <li>10 日本の福祉住環境</li> <li>11 福祉住環境整備の進め方</li> <li>12 福祉住環境整備の基本技術</li> <li>13 福祉住環境整備の実際</li> <li>14 福祉用具の選択・適用</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト 福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト 東京商工会議所 2020年発刊		定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。	

授 業 概 要			
授業のタイトル (科目名) ☆介護の基本 I		授業の種類 (講義) 演習・実習	授業担当者 大貫 真二
授業の回数 30	時間数 (単位数) 60 (4)	配当学年・時期 1年次前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護の基本となる「尊厳の保持」「自立支援」の理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する。介護福祉士としてのあらゆる場面での役割と機能を理解する。 介護福祉の専門性と倫理を理解し、専門職としての態度を養う。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 介護福祉士に求められる役割と機能</li> <li>2 介護福祉士を取り巻く状況</li> <li>3 求められる介護福祉士像</li> <li>4 介護福祉士の倫理 (専門職の倫理、法令遵守、行動規範)</li> <li>5 社会の変化と介護福祉の歴史 (制度以前の介護)</li> <li>6 社会の変化と介護福祉の歴史 (家族機能の変化、地域社会の変化)</li> <li>7 社会の変化と介護福祉の歴史 (介護需要の増加、介護福祉の発展)</li> <li>8 介護の社会化 (介護問題の複雑化・多様化)</li> <li>9 介護の社会化 (介護従事者の多様化、地域社会を支える介護)</li> <li>10 介護福祉の基本理念 (尊厳を支える介護、ノーマライゼーション)</li> <li>11 介護福祉の基本理念 (QOL)</li> <li>12 介護福祉の基本理念 (自立支援、利用者主体)</li> <li>13 心身の状況に応じた介護を考える</li> <li>14 介護福祉士の定義 (社会福祉士及び介護福祉士法、介護福祉士資格取得者の状況)</li> <li>15 社会福祉士及び介護福祉士法に関連する諸規定</li> <li>16 介護福祉士を支える団体 (職能・学術団体の意義、各団体)</li> <li>17 介護の専門性、他の専門職能団体との連携</li> <li>18 介護福祉士の機能と役割 (リーダーとしての役割、キャリアパス、生涯研修)</li> <li>19 介護福祉士の活動と役割 (地域共生社会、介護予防)</li> <li>20 介護福祉士の活動と役割 (災害、終末期、医療的ケア)</li> <li>21 介護福祉士養成カリキュラムの変遷</li> <li>22 自立に向けた介護福祉のあり方</li> <li>23 高齢者や障害を持った人の暮らしを理解する</li> <li>24 その人らしさの背景等を理解する</li> <li>25 人間の個性・多様性の理解、ICFの考え方</li> <li>26 生活様式・生活環境とその重要性</li> <li>27 自立の考え方、集団ケアから個別ケアへ</li> <li>28 自立支援とリハビリテーション</li> <li>29 介護機器や生活用具、支援方法</li> <li>30 まとめ</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新・介護福祉士養成講座 第3巻「介護の基本 I」介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発行 介護労働安定センター 2008年		定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。 100点満点の定期試験を実施し、60点以上を単位認定の目安とする。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) ☆介護の基本Ⅱ		授業の種類 (講義)・演習・実習)	授業担当者 大貫 真二
授業の回数 30	時間数 (単位数) 60 (4)	配当学年・時期 1年次後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護の基本となる「尊厳の保持」「自立支援」の理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を理解する。 介護を必要とする人の生活の個別性に対応するために、生活の多様性や社会とのかかわりを理解する。 介護サービスや地域連携等、フォーマル、インフォーマルな支援を理解する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 介護福祉における自立支援の意義、意思決定支援</li> <li>2 利用者理解の視点 (ICF、エンパワメント、ストレングス)</li> <li>3 生活意欲と活動 (役割、趣味、レクリエーションなど)</li> <li>4 生活意欲と活動 (アクティビティ)</li> <li>5 介護予防の意義、考え方 (栄養、運動、口腔ケア)</li> <li>6 リハビリテーションと介護福祉</li> <li>7 ADL、IADL</li> <li>8 就労支援と介護福祉、働くことの意義</li> <li>9 自立と生活支援 (家族、地域との関わり)</li> <li>10 自立と生活支援 (生活環境の整備)</li> <li>11 自立と生活支援 (バリアフリーとユニバーサルデザイン)</li> <li>12 自立と生活支援 (福祉のまちづくり)</li> <li>13 介護を必要とする人の理解、生活の個別性と多様性</li> <li>14 高齢者の生活 (個別性と多様性)</li> <li>15 高齢者の生活 (生活を支える基盤)</li> <li>16 高齢者の生活 (生活ニーズ)</li> <li>17 高齢者の生活 (家族、地域との関わり)</li> <li>18 高齢者の生活 (働くことの意味と地域活動)</li> <li>19 障害者の生活 (個別性と多様性)</li> <li>20 障害者の生活 (生活を支える基盤)</li> <li>21 障害者の生活 (生活ニーズ)</li> <li>22 障害者の生活 (家族、地域との関わり)</li> <li>23 障害者の生活 (働くことの意味と地域活動)</li> <li>24 家族介護者の理解と支援 (家族が介護することの意義)</li> <li>25 家族介護者の理解と支援 (支援のあり方)</li> <li>26 家族介護者の理解と支援 (介護者家族の会の活動)</li> <li>27 地域の理解と連携の意義、地域包括ケアシステム</li> <li>28 ケアマネジメントの考え方</li> <li>29 介護保険サービス、障害福祉サービスの活用</li> <li>30 フォーマル・インフォーマルな支援の活用 (インフォーマルサポートの役割)</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
<p>最新・介護福祉士養成講座 第4巻「介護の基本Ⅱ」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発行 日本ケアワーク研究所監「見てよくわかるリハビリテーション介護技術 新訂版」一橋出版 2007年、山本和儀「リハビリテーション介護福祉論」医歯薬出版 1996年</p>		<p>定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。 100点満点の定期試験を実施し、60点以上を単位認定の目安とする。</p>	

授 業 概 要			
授業のタイトル (科目名) ☆介護の基本Ⅲ		授業の種類 (講義) 演習・実習)	
		授業担当者 花田 真維子	
授業の回数 30	時間数 (単位数) 60 (4)	配当学年・時期 2年次後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護の基本となる「尊厳の保持」「自立支援」の理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解する。 介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解し、安全確保のための基礎的な知識や事故への対応を理解する。 介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 多職種の役割と専門性の理解 (医療・保険の役割と専門性)</li> <li>2 多職種の役割と専門性の理解 (福祉職の役割と専門性)</li> <li>3 多職種の役割と専門性の理解 (栄養・調理食の役割と専門性)</li> <li>4 多職種の役割と専門性の理解 (その他の関連職種)</li> <li>5 多職種連携の意義と課題</li> <li>6 チームアプローチの意義と目的、具体的展開</li> <li>7 介護における安全の確保、介護事故と法的責任</li> <li>8 危険予知と危険回避 (観察、正確な技術、予測、分析、対策など)</li> <li>9 介護におけるリスク (住宅内事故、介護事故、災害、社会的リスクなど)</li> <li>10 リスクマネジメントの意義・目的</li> <li>11 事故防止、安全対策 (ヒヤリハット)</li> <li>12 防火・防災・減災対策と訓練</li> <li>13 緊急連絡システム</li> <li>14 利用者の生活の安全 (セーフティマネジメント)</li> <li>15 感染対策、感染予防の意義と目的</li> <li>16 感染予防の基礎知識と技術</li> <li>17 感染症対策</li> <li>18 薬物の取り扱いに関する基礎知識と連携</li> <li>19 安全な薬物療法を支える視点 (ポリファーマシー)</li> <li>20 薬剤耐性の知識 (薬剤耐性対策、医師法・保助看法の通知内容)</li> <li>21 介護従事者の安全</li> <li>22 介護従事者を守る団体と法制度 (労働基準法と労働安全法)</li> <li>23 介護従事者を守る環境の整備 (労働安全と環境整備 (育休・介護休暇))</li> <li>24 介護従事者を守る環境の整備 (労働者災害)</li> <li>25 介護従事者の心身の健康管理 (ストレスとストレスマネジメント、燃え尽き症候群、感情労働)</li> <li>26 介護従事者の心身の健康管理 (感染予防と対策)</li> <li>27 介護従事者の心身の健康管理 (腰痛予防と対策、作業環境の整備など)</li> <li>28 介護従事者の心身の健康管理 (労働の環境を改善する視点)</li> <li>29 介護従事者の心身の健康管理 (労働組合)</li> <li>30 まとめ</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
<p>最新・介護福祉士養成講座 第3巻「介護の基本Ⅰ」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発行 最新・介護福祉士養成講座 第4巻「介護の基本Ⅱ」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発行</p>		<p>定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。 100点満点の定期試験を実施し、60点以上を単位認定の目安とする。</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) ☆コミュニケーション技術論 I		授業の種類 (講義・ <b>演習</b> ・実習)		授業担当者 大貫 真二	
授業の回数 15	時間数 (単位数) 30 (1)	配当学年・時期 1年次前期		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 人間関係とコミュニケーションで学ぶコミュニケーションの基本的な知識を基盤に、本人と家族とのよりよい関係性の構築や障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な知識・技術を習得する。介護におけるチームのコミュニケーションについて、情報共の意義、活用、管理などに関する基本知識・技術を習得する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的技術が身につく。情報を適切にまとめ、発信するために、介護実践における情報の共有化の意義を理解し、その具体的な方法や情報の管理について理解する。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 介護を必要とする人とのコミュニケーション (信頼関係の構築)</li> <li>2 介護を必要とする人とのコミュニケーション (介護実践の基盤)</li> <li>3 介護を必要とする人とのコミュニケーション (共感的理解と意思決定支援)</li> <li>4 コミュニケーションの実際 (話を聴く技術)</li> <li>5 コミュニケーションの実際 (感情を察する技術)</li> <li>6 コミュニケーションの実際 (意欲を引き出す技術)</li> <li>7 コミュニケーションの実際 (意向の表出を支援する技術)</li> <li>8 コミュニケーションの実際 (納得と同意を得る技術)</li> <li>9 失語症、構音障害に応じたコミュニケーション技術</li> <li>10 認知症、若年性認知症に応じたコミュニケーション技術</li> <li>11 視力の障害に応じたコミュニケーション技術</li> <li>12 聴力(聞こえ)の障害に応じたコミュニケーション技術</li> <li>13 知的障害に応じたコミュニケーション技術</li> <li>14 精神障害に応じたコミュニケーション技術</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
最新・介護福祉養成講座 第5巻「コミュニケーション技術」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発行 コミュニケーション技術5 野村 豊子 ミネルヴァ書房			定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。		

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) ☆コミュニケーション技術論Ⅱ		授業の種類 (講義・ <b>演習</b> ・実習)		授業担当者 大貫 真二
授業の回数 15	時間数 (単位数) 30 (1)	配当学年・時期 1年次後期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 人間関係とコミュニケーションで学ぶコミュニケーションの基本的な知識を基盤に、本人と家族とのよりよい関係性の構築や障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な知識・技術を習得する。介護におけるチームのコミュニケーションについて、情報共の意義、活用、管理などに関する基本知識・技術を習得する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 本人の置かれている状況を理解し、支援関係の構築や意思決定を支援するためのコミュニケーションの基本的な技術が身につく。家族の置かれている状況・場面を理解し、家族への支援やパートナーシップを構築するためのコミュニケーションの基本的な技術が身につく。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 家族とのコミュニケーション (信頼に基づく協力関係の構築)</li> <li>2 家族とのコミュニケーション (介護実践の基盤)</li> <li>3 家族とのコミュニケーション (家族の意向の表出と気持ちの理解)</li> <li>4 家族とのコミュニケーションの実際 (情報共有)</li> <li>5 家族とのコミュニケーションの実際 (話を聴く技術)</li> <li>6 家族とのコミュニケーションの実際 (本人と家族の意向を調整する技術)</li> <li>7 介護におけるチームのコミュニケーションの意義・目的</li> <li>8 多職種間のコミュニケーションの意義・目的</li> <li>9 チームコミュニケーションの実際 (報告・連絡・相談の実際)</li> <li>10 チームコミュニケーションの実際 (会議の種類、方法、留意点)</li> <li>11 チームコミュニケーションの実際 (説明の技術、資料作成、プレゼンなど)</li> <li>12 チームコミュニケーションの実際 (介護記録の意義・目的、種類、方法、留意点)</li> <li>13 チームコミュニケーションの実際 (情報の活用と管理、ICT活用・記録の管理の留意点など)</li> <li>14 介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]	
最新・介護福祉士養成講座 第5巻「コミュニケーション技術」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発刊 コミュニケーション技術5 野村 豊子 ミネルヴァ書房			定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) ☆生活支援技術論 I (生活支援と環境)		授業の種類 (講義) 演習・実習	授業担当者 花田 真維子 / 大貫 真二
授業の回数 15	時間数 (単位数) 30 (2)	配当学年・時期 1年次前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 生活の豊かさや心身の活性化、自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解する。対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得し、実践の根拠について説明できる能力を身につける。生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を習得する。対象者の能力に応じた福祉用具を選択、活用する知識・技術を習得する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生活を理解する視点</li> <li>2 生活支援の基本的な考え方</li> <li>3 生活支援と I C F の視点を取り入れた生活支援の方法</li> <li>4 生活支援と介護予防の理解</li> <li>5 生活支援におけるリハビリテーションの視点の理解</li> <li>6 バリアフリー、ユニバーサルデザインを考える</li> <li>7 福祉用具の使い方の理解</li> <li>8 介護保険と福祉用具の関係の理解</li> <li>9 住まいの工夫、集団生活の工夫を考える</li> <li>10 高齢者、障害者の住まいの多様性の理解</li> <li>11 高齢者、障害者の住まいに関する法律の理解</li> <li>12 生活の場と住まいの環境を考える</li> <li>13 居住環境に関わる職種の理解</li> <li>14 居住環境の整備におけるアセスメント、家屋評価の理解</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新・介護福祉士養成講座 第6巻「生活支援技術 I」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発刊 ICFに基づく高齢者ケアプロセス 安藤 巴恵 小木曾 加奈子 学文社		定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。 100点満点の定期試験を実施し、60点以上を単位認定の目安とする。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） ☆生活支援技術論Ⅰ演習 （生活支援と環境）		授業の種類 （講義（演習）・実習）	授業担当者 花田 真維子 / 大貫 真二
授業の回数 15	時間数（単位数） 30（1）	配当学年・時期 1年次前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 生活の豊かさや心身の活性化、自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解する。対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得し、実践の根拠について説明できる能力を身につける。生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を習得する。対象者の能力に応じた福祉用具を選択、活用する知識・技術を習得する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自立に向けた居住環境の整備</li> <li>2 介護予防事業の理解</li> <li>3 介護予防の視点を考える</li> <li>4 介護予防計画の立案</li> <li>5 生活の再構築の理解</li> <li>6 障害受容の理解</li> <li>7 身の回りのバリアフリーを調べよう</li> <li>8 バリアフリー住宅を体験しよう①</li> <li>9 バリアフリー住宅を体験しよう②</li> <li>10 福祉用具の活用実践</li> <li>11 家屋内の危険を調べよう</li> <li>12 災害リスクマネジメントの理解</li> <li>13 施設における暮らしを考える</li> <li>14 安心して暮らすを考える</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新・介護福祉士養成講座 第6巻「生活支援技術Ⅰ」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発行 ICFに基づく高齢者ケアプロセス 安藤 巴恵 小木曾 加奈子 学文社		定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) ☆生活支援技術論Ⅱ (身じたくと移動・移乗)		授業の種類 (講義) 演習・実習	授業担当者 花田 真維子 / 大貫 真二
授業の回数 15	時間数 (単位数) 30 (2)	配当学年・時期 1年次前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 生活の豊かさや心身の活性化、自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解する。対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得し、実践の根拠について説明できる能力を身につける。生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を習得する。対象者の能力に応じた福祉用具を選択、活用する知識・技術を習得する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 身じたくの意義と目的の理解</li> <li>2 整髪、口腔ケアの意義と目的の理解</li> <li>3 自立に向けた身じたくの介護の視点 (洗面、スキンケア)</li> <li>4 自立に向けた身じたくの介護の視点 (整髪、口腔ケア)</li> <li>5 身じたくにおけるアセスメントと生活リハビリの視点</li> <li>6 着脱の意義と目的の理解</li> <li>7 自立に向けた着脱の介護の視点</li> <li>8 移動の意義と目的の理解</li> <li>9 自立に向けた移動介助の視点</li> <li>10 移乗の意義と目的の理解</li> <li>11 自立に向けた移乗介助の視点</li> <li>12 移動を助ける福祉用具の理解</li> <li>13 安全・安楽な移動介助の視点</li> <li>14 安全・安楽な移乗介助の視点</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新・介護福祉士養成講座 第7巻「生活支援技術Ⅱ」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発刊 宮川晴妃「高齢者のフットケア」厚生科学研究所 2006年		定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。 100点満点の定期試験を実施し、60点以上を単位認定の目安とする。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) ☆生活支援技術論Ⅱ 演習 (身じたくと移動・移乗)		授業の種類 (講義 (演習)・実習)	授業担当者 花田 真維子 / 大貫 真二
授業の回数 15	時間数 (単位数) 30 (1)	配当学年・時期 1年次前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 生活の豊かさや心身の活性化、自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解する。対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得し、実践の根拠について説明できる能力を身につける。生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を習得する。対象者の能力に応じた福祉用具を選択、活用する知識・技術を習得する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 洗面、ひげそりの介護技術</li> <li>2 整髪、口腔ケアの介護技術</li> <li>3 身じたくにおける介護技術①</li> <li>4 身じたくにおける介護技術②</li> <li>5 衣服着脱の介助方法①</li> <li>6 衣服着脱の介助方法②</li> <li>7 移動における介護技術 (歩行介助) ①</li> <li>8 移動における介護技術 (歩行介助) ②</li> <li>9 移動における介護技術 (車椅子介助) ①</li> <li>10 移動における介護技術 (車椅子介助) ②</li> <li>11 移動における介護技術 (リクライニング車椅子介助)</li> <li>12 移乗における介護技術①</li> <li>13 移乗における介護技術②</li> <li>14 移乗における介護技術③</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新・介護福祉士養成講座 第7巻「生活支援技術Ⅱ」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発行 宮川晴妃「高齢者のフットケア」厚生科学研究所 2006年		定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) ☆生活支援技術論Ⅲ (食事、家事介護)		授業の種類 (講義) 演習・実習)	授業担当者 花田 真維子 / 大貫 真二
授業の回数 15	時間数 (単位数) 30 (2)	配当学年・時期 1年次後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ] 生活の豊かさや心身の活性化、自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解する。対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得し、実践の根拠について説明できる能力を身につける。生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を習得する。対象者の能力に応じた福祉用具を選択、活用する知識・技術を習得する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 食事の意義と目的の理解</li> <li>2 食事の介護に必要な利用者の理解</li> <li>3 自立に向けた食事介護の理解</li> <li>4 食事に対するアセスメントの視点と環境整備を考える</li> <li>5 食行動のメカニズムの理解</li> <li>6 経口摂取へのリハビリテーションの理解</li> <li>7 状態に応じた福祉用具の活用の理解</li> <li>8 認知症高齢者、視覚障害者の食事介助の理解</li> <li>9 椅子、車いすでの安楽な体位・姿勢の理解</li> <li>10 家事の意義と目的の理解</li> <li>11 自立に向けた家事介護の理解</li> <li>12 家事へ参加する意義とそれを支える介護を考える</li> <li>13 家事支援における利用者のアセスメントの視点の理解</li> <li>14 家計の管理を支える介護と制度の理解</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新・介護福祉士養成講座 第6巻「生活支援技術Ⅰ」介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発刊 最新・介護福祉士養成講座 第7巻「生活支援技術Ⅱ」介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発刊		定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。 100点満点の定期試験を実施し、60点以上を単位認定の目安とする。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） ☆生活支援技術論Ⅲ演習 （食事、家事介護）		授業の種類 （講義 <b>演習</b> ・実習）	授業担当者 花田 真維子 / 大貫 真二
授業の回数 15	時間数（単位数） 30（1）	配当学年・時期 1年次後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 生活の豊かさや心身の活性化、自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解する。対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得し、実践の根拠について説明できる能力を身につける。生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を習得する。対象者の能力に応じた福祉用具を選択、活用する知識・技術を習得する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 誤嚥しにくい姿勢・摂取方法、食物の種類・形態、誤嚥時の対応方法の実際</li> <li>2 椅子、車いす、ベッド上での安楽な体位・姿勢の実際</li> <li>3 食事形態の違いによる味の変化の実際</li> <li>4 自力摂取と介助の違いの実際</li> <li>5 食事介助方法の実際</li> <li>6 食材の選び方と旬を考える</li> <li>7 状態に応じた献立を考える</li> <li>8 調理の実際①</li> <li>9 調理の実際②</li> <li>10 自立に向けた家事介護を考える</li> <li>11 清掃の方法と実際</li> <li>12 家事支援の方法と実際</li> <li>13 快適な衣生活を支える介護</li> <li>14 裁縫のある暮らしを支える介護</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
<p>最新・介護福祉士養成講座 第6巻「生活支援技術Ⅰ」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発刊</p> <p>最新・介護福祉士養成講座 第7巻「生活支援技術Ⅱ」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発刊</p> <p>家政学概論 一番ケ瀬 康子 井上 千鶴子 鎌田 ケイ子 ミネルヴァ書房</p>		<p>定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。</p>	

授 業 概 要			
授業のタイトル（科目名） ☆生活支援技術論Ⅳ （排泄、入浴清潔保持）		授業の種類 （講義）演習・実習	授業担当者 花田 真維子 / 大貫 真二
授業の回数 15	時間数（単位数） 30（2）	配当学年・時期 1年次後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 生活の豊かさや心身の活性化、自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解する。対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得し、実践の根拠について説明できる能力を身につける。生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を習得する。対象者の能力に応じた福祉用具を選択、活用する知識・技術を習得する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 排泄の意義、目的の理解</li> <li>2 排泄のメカニズムの理解</li> <li>3 排泄に関するアセスメントの視点</li> <li>4 気持ち良い排泄を支える介護の理解</li> <li>5 排泄の状態別介助（便秘・下痢、頻尿）</li> <li>6 自立に向けた排泄介護の理解</li> <li>7 パッド・オムツを装着することの長所・短所を考える</li> <li>8 入浴の意義、目的、入浴の効果、効能の理解</li> <li>9 入浴に関するアセスメントの視点</li> <li>10 入浴時の観察の視点</li> <li>11 気持ち良い入浴を支える介護の理解</li> <li>12 自立に向けた入浴介護の理解</li> <li>13 安全的確な入浴の方法（一般浴、個浴、機械浴）</li> <li>14 ベッド上での安全的確な清拭・洗髪の方法、足浴・手浴の方法</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新・介護福祉士養成講座 第7巻「生活支援技術Ⅱ」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発刊 バイタル測定、整容行為、その他の行為の知識と手順～介護のプロなら知っておきたい！～ 平野 頼子 日本医療企画		定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。 100点満点の定期試験を実施し、60点以上を単位認定の目安とする。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） ☆生活支援技術論Ⅳ演習 （排泄、入浴清潔保持）		授業の種類 （講義・ <b>演習</b> ・実習）	授業担当者 花田 真維子 / 大貫 真二
授業の回数 15	時間数（単位数） 30（1）	配当学年・時期 1年次後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 生活の豊かさや心身の活性化、自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解する。対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得し、実践の根拠について説明できる能力を身につける。生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を習得する。対象者の能力に応じた福祉用具を選択、活用する知識・技術を習得する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 安全な排泄介助（トイレ、ポータブルトイレ、採尿器、差し込み便器）</li> <li>2 汚染時のベッド上でのシーツ交換</li> <li>3 自立に向けた排泄介護を考える</li> <li>4 排泄介助の実際（トイレ介助）①</li> <li>5 排泄介助の実際（トイレ介助）②</li> <li>6 安全な排泄介助を考える</li> <li>7 利用者の状態に応じた介助の実際（運動機能）</li> <li>8 利用者の状態に応じた介助（認知症）</li> <li>9 自立に向けた入浴介護を考える</li> <li>10 入浴介助の実際（一般浴）</li> <li>11 入浴介助の実際（個浴）</li> <li>12 入浴介助の実際（機械浴）</li> <li>13 ベッド上での安全的確な清拭、洗髪の実際</li> <li>14 安全的確な足浴、手浴の実際</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
<p>最新・介護福祉士養成講座 第7巻「生活支援技術Ⅱ」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発行</p> <p>バイタル測定、整容行為、その他の行為の知識と手順～介護のプロなら知っておきたい！～ 平野 頼子 日本医療企画</p>		<p>定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) ☆生活支援技術論Ⅴ (睡眠、終末期の介護)		授業の種類 (講義) 演習・実習	授業担当者 花田 真維子
授業の回数 15	時間数 (単位数) 30 (2)	配当学年・時期 2年次前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解できる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 睡眠の意義と目的</li> <li>2 不眠の理由と不眠時の対応、安眠への介護</li> <li>3 環境作りとベッドメイキング</li> <li>4 感覚・運動機能の低下時介助</li> <li>5 認知・知覚機能の低下時介助</li> <li>6 利用者に対応した安楽睡眠体位</li> <li>7 終末期における介護の意義・目的</li> <li>8 ICFの考え方と終末期におけるアセスメント</li> <li>9 医療との連携</li> <li>10 終末期における介護</li> <li>11 危篤時の介護の実際</li> <li>12 高齢者介護と死の看取り (1)</li> <li>13 高齢者介護と死の看取り (2)</li> <li>14 施設ターミナルケアと臨終時の対応演習</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
<p>最新・介護福祉士養成講座 第7巻「生活支援技術Ⅱ」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発刊</p> <p>最新・介護福祉士養成講座 第8巻「生活支援技術Ⅲ」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発刊</p> <p>大田仁史・三好春樹監・著「完全図解 新しい介護」講談社 2003年</p>		<p>定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。</p> <p>100点満点の定期試験を実施し、60点以上を単位認定の目安とする。</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) ☆生活支援技術論Ⅴ演習 (睡眠、終末期の介護)		授業の種類 (講義・ <b>演習</b> ・実習)	授業担当者 花田 真維子
授業の回数 15	時間数 (単位数) 30 (1)	配当学年・時期 2年次前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解できる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 眠れないときの状態 (1)</li> <li>2 眠れないときの状態 (2)</li> <li>3 体験学習①</li> <li>4 体験学習②</li> <li>5 体験学習③</li> <li>6 体験学習④</li> <li>7 終末期における介護の意義・目的を考える</li> <li>8 ICFの考え方と終末期におけるアセスメント</li> <li>9 医療との連携 (チーム医療について)</li> <li>10 終末期における介護の実際</li> <li>11 危篤時の介護の実際</li> <li>12 高齢者介護と死の看取り (1)</li> <li>13 高齢者介護と死の看取り (2)</li> <li>14 施設ターミナルケアと臨終時の対応演習</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新・介護福祉士養成講座 第7巻「生活支援技術Ⅱ」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発刊 最新・介護福祉士養成講座 第8巻「生活支援技術Ⅲ」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発刊		定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） ☆介護過程論 I		授業の種類 (講義) 演習・実習	授業担当者 大貫 真二
授業の回数 15	時間数（単位数） 30(2)	配当学年・時期 1年次前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 他の科目で学習した知識や技術を統合して、本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得し、介護過程を展開することで、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護過程の意義・目的、展開のプロセス及び実践的展開とさらにアセスメントの方法と実際について学習する。 基礎的理解、介護過程とチームアプローチ、個別事例を通じた介護過程の展開の実際について、介護総合演習</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法を理解する。個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開ができる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 介護過程の意義と目的・目標</li> <li>2 展開のプロセス</li> <li>3 介護過程の展開要素、展開の基本</li> <li>4 生活支援における介護過程の必要性</li> <li>5 介護過程と生活支援、個別の介護技術</li> <li>6 具体的場面における知識と技術を考える</li> <li>7 根拠に基づく介護過程の展開</li> <li>8 アセスメントとは、アセスメントの方法</li> <li>9 情報収集について</li> <li>10 情報の解釈・関連付け・統合化</li> <li>11 課題の明確化</li> <li>12 アセスメントの実際</li> <li>13 アセスメントの実際（事例を通して）</li> <li>14 アセスメントの実施</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新・介護福祉士養成講座 第9巻「介護過程」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発行		定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。 100点満点の定期試験を実施し、60点以上を単位認定の目安とする。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） ☆介護過程論Ⅱ		授業の種類 (講義) 演習・実習	授業担当者 大貫 真二
授業の回数 15	時間数（単位数） 30 (2)	配当学年・時期 1年次後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 他の科目で学習した知識や技術を統合して、本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得し、介護過程を展開することで、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護計画の立案、実施、評価、個別援助計画について学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 個別の生活課題や潜在能力を引き出すためのアセスメント、自立支援に沿った介護計画の立案・実施・評価、特に個別援助について理解する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 個別援助計画</li> <li>2 目標設定</li> <li>3 個別援助実施のための準備</li> <li>4 個別援助実施のための留意点</li> <li>5 個別援助実施状況の把握</li> <li>6 評価の意義と目的</li> <li>7 評価内容</li> <li>8 評価方法</li> <li>9 評価の留意点</li> <li>10 計画修正の必要性</li> <li>11 研究的視点</li> <li>12 個別援助計画と実施評価表1</li> <li>13 個別援助計画と実施評価表2</li> <li>14 個別援助計画と実施評価表3</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座 第9巻「介護過程」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発行		[単位認定の方法及び基準] 定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。 100点満点の定期試験を実施し、60点以上を単位認定の目安とする。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) ☆介護過程論Ⅲ		授業の種類 (講義) 演習・実習	授業担当者 大貫 真二
授業の回数 15	時間数 (単位数) 30 (2)	配当学年・時期 1年次後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 他の科目で学習した知識や技術を統合して、本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得し、介護過程を展開することで、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護過程の実践的展開、アセスメントの実際、介護過程展開の実際について、学生自身で考えた事例を通して学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 個別の生活課題や潜在能力を引き出すためのアセスメント、自立支援に沿った介護計画の立案・実施・評価、について事例を通してその必要性を理解する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 事例で学ぶ介護過程の展開、目的と効果</li> <li>2 事例で学ぶ介護過程の展開、重要な視点・留意点</li> <li>3 事例の内容の決定</li> <li>4 情報収集、フェイスシートの作成</li> <li>5 アセスメント (情報の解釈・関連づけ・統合化)</li> <li>6 アセスメント (課題の明確化)</li> <li>7 介護計画作成</li> <li>8 実施状況のロールプレイ</li> <li>9 評価の演習</li> <li>10 再アセスメント</li> <li>11 介護過程の展開を支える考え方</li> <li>12 セルフケア理論、ニーズ論</li> <li>13 ICFの視点、ストレングスの視点</li> <li>14 ナラティブアプローチ</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉養成講座 第9巻「介護過程」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年 発刊		[単位認定の方法及び基準] 定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） ☆介護過程論Ⅳ		授業の種類 (講義) 演習・実習	授業担当者 花田 真維子
授業の回数 15	時間数（単位数） 30 (2)	配当学年・時期 2年次前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 他の科目で学習した知識や技術を統合して、本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得し、介護過程を展開することで、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護過程とケアマネジメントの関係性、チームアプローチにおける介護福祉士の役割について学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護過程におけるケアマネジメントとケアプランについてまで、他職種協同によるチームアプローチの必要性について理解する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 介護過程とケアマネジメントの全体像、定義・構成要素・歴史的背景</li> <li>2 ケアマネジメントの理念・目的・流れ</li> <li>3 ケアプランと個別援助計画の関係性</li> <li>4 多職種連携、チームアプローチの意義、必要性・意義</li> <li>5 チームにおける介護福祉士の役割、サービス担当者会議</li> <li>6 事例学習（在宅生活支援例1）</li> <li>7 同上（在宅生活支援例2）</li> <li>8 同上（介護老人福祉施設例）</li> <li>9 同上（グループホーム例）</li> <li>10 同上（身体障害者療護施設例）</li> <li>11 アセスメントシートの使い方</li> <li>12 同上（介護老人福祉施設例1）</li> <li>13 同上（介護老人福祉施設例2）</li> <li>14 同上（家族と暮らす例）</li> <li>15 事例学習まとめ</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新・介護福祉士養成講座 第9巻「介護過程」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発行 介護福祉総論 井上 千鶴子 上之園 桂子 田中 由紀子 第一法規		定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） ☆介護過程論Ⅴ		授業の種類 (講義)・演習・実習)	授業担当者 花田 真維子
授業の回数 15	時間数（単位数） 30 (2)	配当学年・時期 2年次後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 他の科目で学習した知識や技術を統合して、本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得し、介護過程を展開することで、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 総合実習Ⅱでの介護過程展開を体験し、そこでの自らの学びをまとめ、他者に伝える。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 実習での体験を適切にまとめることができ、他者に伝えるプレゼンテーション能力を身につけることができる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 実習における実践報告</li> <li>2 対象者の状態・状況に応じた介護過程の展開</li> <li>3 事例報告集作成</li> <li>4 同上</li> <li>5 同上</li> <li>6 報告集作成のまとめ</li> <li>7 利用者の様々な生活と介護過程の展開</li> <li>8 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開、事例1（精神障害のある人の生活支援）</li> <li>9 事例2（進行性筋ジストロフィーによる重度の障害のある人の生活支援）</li> <li>10 事例3（在宅でターミナルを迎える高齢者と家族の生活支援）</li> <li>11 事例4（雪国における一人暮らしの高齢者の生活支援）</li> <li>12 事例5（片麻痺のある高齢者の夢の実現に向けた支援）</li> <li>13 事例6（ストレッチャーで入所した高齢者が歩いて映画館に行くまでの支援）</li> <li>14 事例学習まとめ</li> <li>15 介護過程総まとめ</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座 第9巻「介護過程」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発行		[単位認定の方法及び基準] 定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。	

授 業 概 要			
授業のタイトル（科目名） ☆介護総合演習 I		授業の種類 (講義・演習・実習)	
		授業担当者 花田 真維子	
授業の回数 30	時間数（単位数） 60(2)	配当学年・時期 1年次通年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]            実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に生徒が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]            各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探究を通し、介護実習での学びを深化させるとともに、介護の専門職として思考や態度の形成、自己教育力等を養う総合的な学習とする。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]            介護実習の効果を上げるため、事前の実習する施設や事業所について理解が深まるようにするとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につながる。            実習を振り返り、介護の知識や技術を結び付けて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を養う。            質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法について理解できるようにする。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 実習の意義と目的</li> <li>2 介護実習の流れと介護総合演習との関連</li> <li>3 介護活動の場と介護の特性の理解（実習施設・事業など I・II の区分）</li> <li>4 施設見学（介護保険施設）</li> <li>5 施設見学（身体障害者施設）</li> <li>6 施設見学（知的障害者授産施設）</li> <li>7 施設見学の振り返り</li> <li>8 基礎実習 I の実習先の理解</li> <li>9 コミュニケーション・マナー・接遇①</li> <li>10 コミュニケーション・マナー・接遇②</li> <li>11 記録の書き方①</li> <li>12 記録の書き方②</li> <li>13 目標の立案①</li> <li>14 目標の立案②</li> <li>15 個人表・振り返り記録表の書き方</li> <li>16 実習報告会①</li> <li>17 実習報告会②</li> <li>18 実習記録の再検討①</li> <li>19 実習記録の再検討②</li> <li>20 基礎実習 II の実習先の理解</li> <li>21 コミュニケーション場面想定演習①</li> <li>22 コミュニケーション場面想定演習②</li> <li>23 認知症高齢者に対する支援を考える</li> <li>24 レクリエーションを考える①</li> <li>25 レクリエーションを考える②</li> <li>26 プロセスレコードの書き方</li> <li>27 目標の立案</li> <li>28 記録の書き方①</li> <li>29 記録の書き方②</li> <li>30 感染予防・健康管理</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
新・介護福祉士養成講座 第10巻「介護総合演習・介護実習」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発行		定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。	

授 業 概 要			
授業のタイトル（科目名） ☆介護総合演習Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実習)	
		授業担当者 花田 真維子	
授業の回数 30	時間数（単位数） 60(2)	配当学年・時期 2年次通年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護課程の展開の能力などについて、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探究を通し、介護実習での学びを深化させるとともに、介護の専門職として思考や態度の形成、自己教育力等を養う総合的な学習とする。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護実習の効果を上げるため、事前の実習する施設や事業所について理解が深まるようにするとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につながる。実習を振り返り、介護の知識や技術を結び付けて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし、専門職としての態度をを養う。質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法について理解できるようにする。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 実習報告会①</li> <li>2 介護実践の科学的探究（研究の意義目的、倫理的配慮）</li> <li>3 実習記録の再検討①</li> <li>4 実習記録の再検討②</li> <li>5 総合実習Ⅰの実習先の理解</li> <li>6 食事場面における介護技術①</li> <li>7 食事場面における介護技術②</li> <li>8 整容場面における介護技術①</li> <li>9 整容場面における介護技術②</li> <li>10 入浴場面における介護技術①</li> <li>11 入浴場面における介護技術②</li> <li>12 排泄場面における介護技術①</li> <li>13 排泄場面における介護技術②</li> <li>14 事例検討～必要な介護とは～</li> <li>15 目標の立案</li> <li>16 実習報告会①</li> <li>17 実習報告会②</li> <li>18 実習記録の再検討①</li> <li>19 実習記録の再検討②</li> <li>20 総合実習Ⅰの実習先の理解</li> <li>21 カンファレンスの理解</li> <li>22 緊急時の対応方法</li> <li>23 介護過程の展開方法①</li> <li>24 介護過程の展開方法②</li> <li>25 介護過程の展開方法③</li> <li>26 介護過程の展開方法④</li> <li>27 目標の立案</li> <li>28 実習報告会①</li> <li>29 実習報告会②</li> <li>30 実習報告会③</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新・介護福祉士養成講座 第10巻「介護総合演習・介護実習」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発行		定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。	

授 業 概 要			
授業のタイトル（科目名） ☆基礎実習 I		授業の種類 (講義・演習・実習)	
		授業担当者 花田 真維子	
授業の回数 6日間（×8時間＝48時間）	時間数（単位） 45（1）	配当学年・時期 1年次後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、地域における様々な生活の場において対象者の生活を理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての看護福祉士の役割を理解する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 対象者の生活と地域とのかかわりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>期間： 2021年9月上旬 6日間（45時間）</p> <p>場所： デイサービス等</p> <p>内容： 1. 実習施設におけるオリエンテーション及び体験実習 2. 利用者とのコミュニケーションを通して利用者の特性を理解する 3. 介護サービスの行われている場としてのそれぞれの特性を理解する 4. 介護サービスの専門職を理解する 5. 利用者の生活における介護サービスの役割を理解する</p>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新・介護福祉士養成講座 第10巻「介護総合演習・介護実習」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発行 介護福祉実習マニュアル 田家 英二 豊田 宗裕 八千代出版		実習に臨む態度、レポートの提出、施設からの評価表及び出席状況等の総合評価により実施する。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） ☆基礎実習Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 花田 真維子
授業の回数 12日間（×8時間＝96時間）	時間数（単位） 90（2）	配当学年・時期 1年次後期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、地域における様々な生活の場において対象者の生活を理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての看護福祉士の役割を理解する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 対象者の生活と地域とのかかわりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>期間：2022年3月上旬 12日間（90時間）</p> <p>場所：グループホーム等</p> <p>内容：1. 施設における実習オリエンテーション 2. 基本的な介護技術を習得する 3. 社会性活の維持、拡大に向けての介護のあり方を理解する 4. 介護に必要な医療知識を理解し、目的に沿った客観的な記録が書ける 5. 指導者を混じえての反省会を行う</p>				
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]		
最新・介護福祉士養成講座 第10巻「介護総合演習・介護実習」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発行 介護福祉実習マニュアル 田家 英二 豊田 宗裕 八千代出版		実習に臨む態度、レポートの提出、施設からの評価表及び出席状況等の総合評価により実施する。		

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) ☆総合実習 I		授業の種類 (講義・演習・ <b>実習</b> )		授業担当者 花田 真維子
授業の回数 12日間 (×8時間=96時間)	時間数 (単位) 90 (2)	配当学年・時期 2年次前期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者のニーズに沿って利用者ごとの介護計画の作成、実施、実施後の評価、計画の修正といった一連の介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程実践的に学ぶ。多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>期間：2020年5月下旬 12日間 (90時間)</p> <p>場所：介護保険施設等</p> <p>内容：1. 実習施設オリエンテーション 2. 担当利用者を決め、情報を収集し介護上の課題を明確にする 3. チームの一員として役割を果たす 4. ケアカンファレンスを行う 5. 利用者の状況に応じて、他職種と連携して介護を実践する 6. チームの一員としての役割を果たす 7. 研究的視点を持って、担当者の介護過程を考慮する 8. 指導者を混じえての反省会を行う</p>				
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]	
最新・介護福祉士養成講座 第10巻「介護総合演習・介護実習」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発刊 介護福祉実習マニュアル 田家 英二 豊田 宗裕 八千代出版			実習に臨む態度、レポートの提出、施設からの評価表及び出席状況等の総合評価により実施する。	

授 業 概 要				
授業のタイトル (科目名) ☆総合実習Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・ <u>実習</u> )		授業担当者 花田 真維子
授業の回数 29日間 (×8時間=232時間)	時間数 (単位) 225 (5)	配当学年・時期 2年次後期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者のニーズに沿って利用者ごとの介護計画の作成、実施、実施後の評価、計画の修正といった一連の介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程実践的に学ぶ。多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>期間：2022年7月下旬 ～ 2020年9月上旬 29日間 (225時間)</p> <p>場所：介護保険施設等</p> <p>内容：1. 実習施設オリエンテーション 2. 担当利用者を決め、情報を収集し介護上の課題を明確にする 3. チームの一員として役割を果たす 4. ケアカンファレンスを行う 5. 利用者の状況に応じて、他職種と連携して介護を実践する 6. チームの一員としての役割を果たす 7. 研究的視点を持って、担当者の介護過程を考慮する 8. 可能であれば、変則勤務を体験する 9. 指導者を混じえての反省会を行う</p>				
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]	
最新・介護福祉士養成講座 第10巻「介護総合演習・介護実習」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発刊 介護福祉実習マニュアル 田家 英二 豊田 宗裕 八千代出版			実習に臨む態度、レポートの提出、施設からの評価表及び出席状況等の総合評価により実施する。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) ☆発達と老化の理解 I		授業の種類 (講義) 演習・実習)	授業担当者 花田 真維子
授業の回数 15	時間数 (単位数) 30 (2)	配当学年・時期 2年次前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護を必要とする人の理解を深めるため、人間の成長と発達の観点から人の一生について理解する。ライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達を踏まえ、各段階に応じた生活支援のあり方を学ぶ。発達観点から老化を理解し、老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や疾病と生活への影響など、生活を支援するための基礎的な知識を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について理解する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 人間の成長と発達、成長・発達の原則、影響する因子</li> <li>2 人間の発達段階と発達課題、発達理論</li> <li>3 身体的機能の成長と発達</li> <li>4 心理的機能の発達</li> <li>5 社会的機能の発達</li> <li>6 発達段階別の特徴的な疾病や障害 (胎生期・乳児期・幼児期・学童期)</li> <li>7 発達段階別の特徴的な疾病や障害 (思春期・青年期・成人期)</li> <li>8 老年期の定義 (WHO、老人福祉法)</li> <li>9 老化とは (特徴、加齢と老化、老化学説)</li> <li>10 老年期の発達課題 (人格と尊厳、老いの価値)</li> <li>11 老年期の発達課題 (喪失体験、セクシュアリティ)</li> <li>12 高齢者と健康 (健康寿命、サクセスフルエイジング、プロダクティブエイジング、アクティブエイジング)</li> <li>13 老化に伴う社会的機能の変化と日常生活への影響</li> <li>14 保健医療職との連携</li> <li>15 老年期をめぐる今日的課題</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
<p>最新・介護福祉士養成講座 第12巻「発達と老化の理解」介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発行 介護・医療・予防研究会編「高齢者を知る事典」厚生科学研究所 2000年</p>		<p>定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。 100点満点の定期試験を実施し、60点以上を単位認定の目安とする。</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) ☆発達と老化の理解Ⅱ		授業の種類 (講義)・演習・実習)	授業担当者 花田 真維子
授業の回数 15	時間数 (単位数) 30 (2)	配当学年・時期 2年次前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護を必要とする人の理解を深めるため、人間の成長と発達の観点から人の一生について理解する。ライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達を踏まえ、各段階に応じた生活支援のあり方を学ぶ。発達の観点から老化を理解し、老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や疾病と生活への影響など、生活を支援するための基礎的な知識を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活への支援について理解する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 老化に伴う心身の変化の特徴 (予備力、防護力、回復力、適応力、恒常性機能など)</li> <li>2 老化に伴う身体的機能の変化と生活への影響</li> <li>3 老化に伴う心理的機能の変化と生活への影響</li> <li>4 老化に伴う社会的機能の変化と生活への影響</li> <li>5 社会生活を営む上での課題</li> <li>6 高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点、老年症候群</li> <li>7 高齢者に多い代表的な疾患 (脳・神経)</li> <li>8 高齢者に多い代表的な疾患 (骨格系・筋系)</li> <li>9 高齢者に多い代表的な疾患 (皮膚・感覚系)</li> <li>10 高齢者に多い代表的な疾患 (循環器系)</li> <li>11 高齢者に多い代表的な疾患 (呼吸器系)</li> <li>12 高齢者に多い代表的な疾患 (腎・泌尿器系)</li> <li>13 高齢者に多い代表的な疾患 (悪性新生物)</li> <li>14 高齢者に多い代表的な疾患 (精神疾患、感染症)</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新・介護福祉士養成講座 第12巻「発達と老化の理解」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発行		定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。 100点満点の定期試験を実施し、60点以上を単位認定の目安とする。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) ☆認知症の理解 I		授業の種類 (講義) 演習・実習)	授業担当者 花田 真維子
授業の回数 15	時間数 (単位数) 30 (2)	配当学年・時期 1年次後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に捉え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 認知症を取り巻く状況、認知症ケアの歴史や理念等について学ぶ。認知症の原因となる主な疾患や症状の特徴を学び、それらによって引き起こされる機能の変化や日常生活への影響について理解する。さらに利用者個々の特性を踏まえた適切なケアを提供するための知識や支援方法、地域で生活する認知症のある人とその家族の支援体制のあり方、多職種連携・協働のあり方について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 認知症ケアの歴史や理念を含む、認知症を取り巻く社会的環境を理解する。 認知症の人の生活及び家族や社会とのかかわりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につなぐことができる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 認知症とは何か</li> <li>2 認知症ケアの歴史</li> <li>3 認知症ケアの理念</li> <li>4 認知症のある高齢者の現状と今後</li> <li>5 認知症に関する行政の方針と施策</li> <li>6 認知症に伴う生活への影響</li> <li>7 認知症ケアの実際 (本人主体のケア)</li> <li>8 認知症ケアの実際 (パーソンセンタード・ケア)</li> <li>9 認知症ケアの実際 (認知症の人とのコミュニケーション)</li> <li>10 認知症ケアの実際 (生活支援)</li> <li>11 認知症の人へのさまざまなかかわり (RO、回想法、音楽療法、バリデーション療法など)</li> <li>12 認知症の人を介護する家族の状況</li> <li>13 家族への支援 (家族の実態、家族の身体的、心理的、社会的負担)</li> <li>14 家族への支援 (介護力、レスパイト、家族会)</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新・介護福祉士養成講座 第13巻「認知症の理解」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発行		定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。 100点満点の定期試験を実施し、60点以上を単位認定の目安とする。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) ☆認知症の理解Ⅱ		授業の種類 (講義) 演習・実習	授業担当者 花田 真維子
授業の回数 15	時間数 (単位数) 30 (2)	配当学年・時期 2年次前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に捉え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 認知症を取り巻く状況、認知症ケアの歴史や理念等について学ぶ。認知症の原因となる主な疾患や症状の特徴を学び、それらによって引き起こされる機能の変化や日常生活への影響について理解する。さらに利用者個々の特性を踏まえた適切なケアを提供するための知識や支援方法、地域で生活する認知症のある人とその家族の支援体制のあり方、多職種連携・協働のあり方について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 医学的・心理的側面から、認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を理解する。 認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制や、多職種連携・協働による支援について理解する。 認知症の人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援につなぐことができる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 脳のしくみ</li> <li>2 認知症のさまざまな症状 (中核症状、BPSD)</li> <li>3 認知症の検査・診断 (HDS-R、MMSE、FAST)</li> <li>4 認知症と鑑別すべき症状・診断 (うつ病、せん妄)</li> <li>5 認知症の原因疾患と症状 (アルツハイマー、血管性、レビー小体)</li> <li>6 認知症の原因疾患と症状 (前頭側頭型、治療可能な認知症)</li> <li>7 若年性認知症</li> <li>8 認知症の治療</li> <li>9 認知症の予防</li> <li>10 認知症の人の心理</li> <li>11 地域におけるサポート体制 (地位包括支援センター、コミュニティ、認知症サポーター)</li> <li>12 地域におけるサポート体制 (認知症疾患医療センター、認知症初期集中支援チーム)</li> <li>13 認知症地域支援推進員、認知症カフェ</li> <li>14 多職種連携と協働</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
<p>最新・介護福祉士養成講座 第12巻「認知症の理解」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発刊 認知症ケア標準テキスト 改訂・認知症ケアの基礎 認知症ケア学会 ワールドプランニング社</p>		<p>定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。 100点満点の定期試験を実施し、60点以上を単位認定の目安とする。</p>	

授 業 概 要			
授業のタイトル (科目名) ☆障害の理解 I (身体障害)		授業の種類 (講義)・演習・実習)	授業担当者 花田 真維子
授業の回数 15	時間数 (単位数) 30 (2)	配当学年・時期 1 年次後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 身体障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得し、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 障害の基礎的理解として、障害の概念や基本的理念、さらに障害の医学的・心理的側面の基礎的な知識を学び、障害のある人のライフステージや特性に応じた支援、多職種連携と協働、家族への支援について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ] 障害の概念や障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解する。医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解する。障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、QOLを高める支援につなぐことができる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 障害の概念 (ICIDHからICFへ)</li> <li>2 障害者福祉の基本理念 (ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョン、IL運動、アトホカシー、国際障害者年)</li> <li>3 障害の心理的理解 (受容の過程、適応と適応機制、障害のある子どもの心理)</li> <li>4 身体障害の基本的理解 (身体障害の定義、視覚障害、聴覚障害)</li> <li>5 身体障害の基本的理解 (肢体不自由、高次脳機能障害)</li> <li>6 身体障害の基本的理解 (内部障害)</li> <li>7 身体障害の心理的特徴と支援</li> <li>8 精神障害の基本的理解 (精神障害の定義、統合失調症、うつ病)</li> <li>9 精神障害者の心理的特徴と支援</li> <li>10 発達障害の基本的理解</li> <li>11 発達障害の心理的特徴と支援</li> <li>12 知的障害の基本的理解</li> <li>13 知的障害の心理的特徴と支援</li> <li>14 難病の基本的理解</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新・介護福祉士養成講座 第14巻「障害の理解」介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発刊 春日武彦「援助者必携—はじめての精神科」医学書院 2004年		定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。 100点満点の定期試験を実施し、60点以上を単位認定の目安とする。	

授 業 概 要			
授業のタイトル (科目名) ☆障害の理解Ⅱ (知的・精神障害)		授業の種類 (講義) 演習・実習)	授業担当者 吉田・長谷・杉浦・宮本
授業の回数 15	時間数 (単位数) 30 (2)	配当学年・時期 2年次前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 身体障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得し、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 障害の基礎的理解として、障害の概念や基本的理念、さらに障害の医学的・心理的側面の基礎的な知識を学び、障害のある人のライフステージや特性に応じた支援、多職種連携と協働、家族への支援について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働による支援について理解する。障害のある人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援につなぐことができる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 障害とは何か</li> <li>2 障害の概念、障害者福祉の基本理念</li> <li>3 障害者福祉の歴史と展開</li> <li>4 生活と障害 (支援方法、サービスの種類、合理的配慮)</li> <li>5 障害者福祉の現状と施策 (意思決定支援、成年後見制度、障害者総合支援法)</li> <li>6 障害のある人に対する介護の基本的視点 (自立支援)</li> <li>7 障害者をとりまく環境 (バリアフリー、ユニバーサルデザイン)</li> <li>8 家族の状態の把握と介護負担の軽減</li> <li>9 家族への支援</li> <li>10 障害者の就労 (支援)</li> <li>11 多職種連携と協働</li> <li>12 社会資源の理解の利用と開発</li> <li>13 地域におけるサポート体制</li> <li>14 地域自立支援協議会、ボランティア</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新・介護福祉士養成講座 第14巻「障害の理解」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発行 春日武彦「援助者必携—はじめての精神科」医学書院 2004年		定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。 100点満点の定期試験を実施し、60点以上を単位認定の目安とする。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) ☆こころとからだのしくみ I		授業の種類 (講義)・演習・実習	授業担当者 由久保 弘明・花田 真維子
授業の回数 15	時間数 (単位数) 30 (2)	配当学年・時期 1 年次前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護サービスを実際に提供する際に必要な観察力、判断力の根拠となる人間のこころのしくみとからだのしくみの基礎を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 身体の部位と名称・体位</li> <li>2 ボディメカニクス (動作の原理)</li> <li>3 心身の調和 (自律神経・内分泌系についての理解)</li> <li>4 生命に維持と恒常性のしくみ</li> <li>5 細胞・遺伝について</li> <li>6 脳神経と末梢神経</li> <li>7 骨と関節のしくみ</li> <li>8 筋肉の作用、動き</li> <li>9 循環器</li> <li>10 血液・リンパ系</li> <li>11 呼吸器</li> <li>12 消化器</li> <li>13 感覚器</li> <li>14 泌尿器</li> <li>15 生殖器、内分泌</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新・介護福祉士養成講座 第11巻「こころとからだのしくみ」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発行		定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。 小テスト、単元テスト、定期試験を実施し、総合60点以上を単位認定の目安とする。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) ☆こころとからだのしくみⅡ		授業の種類 (講義)・演習・実習	授業担当者 由久保 弘明・花田 真維子
授業の回数 23	時間数 (単位数) 45 (3)	配当学年・時期 1年次後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護サービスを実際に提供する際に必要な観察力、判断力の根拠となる人間のこころのしくみとからだのしくみの基礎を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 人の基本的欲求と社会的欲求</li> <li>2 自己概念とそれに影響する因子</li> <li>3 自立への意欲と自己概念</li> <li>4 自己実現と尊厳、生きがいについて</li> <li>5 脳のしくみ(学習・記憶・思考のしくみ)</li> <li>6 感情のしくみ(意欲、動機づけのしくみ)</li> <li>7 脳と感情の関連</li> <li>8 食事の必要性とそれに関連したこころとからだのしくみ</li> <li>9 代償的栄養摂取と食事の種類</li> <li>10 精神・身体的機能の障害が食事に及ぼす影響について</li> <li>11 食事での観察、変化への気づきと対応</li> <li>12 排泄に関連したこころとからだのしくみ</li> <li>13 精神・身体的機能の障害が入浴・清潔保持に及ぼす影響</li> <li>14 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ</li> <li>15 身じたくに関連したこころとからだのしくみについて</li> <li>16 身体機能・精神機能の低下が身じたくに及ぼす影響</li> <li>17 身じたくでの観察ポイント (変化への気づきと対応)</li> <li>18 移動に関連したこころとからだのしくみ</li> <li>19 身体機能・精神機能の低下が移動に及ぼす影響</li> <li>20 移動での観察ポイント (変化への気づき)</li> <li>21 入浴・清潔保持に関連したしくみ 入浴・清潔保持のしくみ</li> <li>22 入浴・清潔保持に関連したしくみ 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響</li> <li>23 入浴・清潔保持に関連したしくみ 変化の気づきと対応</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新・介護福祉士養成講座 第11巻「こころとからだのしくみ」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発行		定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。 小テスト、単元テスト、定期試験を実施し、総合60点以上を単位認定の目安とする。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） ☆こころとからだのしくみⅢ		授業の種類 講義・演習・実習	授業担当者 花田 真維子
授業の回数 15	時間数（単位数） 30（2）	配当学年・時期 2年次前後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] こころとからだのしくみⅠの知識を基に、利用者の身じたくや食事、排泄などの生活を支える介護実践との関係を学ぶ。 終末期の心身の変化が及ぼす影響、生活支援を行うために必要な基礎的知識を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 生活支援の場面に応じたこころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。 人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援を行うために必要な知識を理解する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 排泄に関連したしくみ 排泄のしくみ</li> <li>2 排泄に関連したしくみ 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響</li> <li>3 排泄に関連したしくみ 変化の気づきと対応</li> <li>4 睡眠に関連したしくみ 睡眠のしくみ</li> <li>5 睡眠に関連したしくみ 心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響</li> <li>6 睡眠に関連したしくみ 変化の気づきと対応</li> <li>7 死にゆく人に関連したしくみ 「死」を理解する</li> <li>8 死にゆく人に関連したしくみ 終末期から「死」までの変化と特徴1</li> <li>9 死にゆく人に関連したしくみ 終末期から「死」までの変化と特徴2</li> <li>10 死にゆく人に関連したしくみ 「死」に対するこころの理解1</li> <li>11 死にゆく人に関連したしくみ 「死」に対するこころの理解2</li> <li>12 死にゆく人に関連したしくみ 医療職との連携ポイント</li> <li>13 家族との関わり</li> <li>14 救急蘇生</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新・介護福祉士養成講座 第11巻「こころとからだのしくみ」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発行 最新・介護福祉士養成講座 第1巻「人間の理解」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発行		定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 心理学入門		授業の種類 (講義) 演習・実習	授業担当者 大角 幸治
授業の回数 8	時間数 (単位数) 15 (1)	配当学年・時期 1年次前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 人間の表に表れた行動を通して心の動きや変化、すなわち心的過程を知る能力を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 人間理解の基礎について学習する。心的過程について学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 人間のこころのしくみと行動を理解する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 心理学とは</li> <li>2 感覚と知覚と認知</li> <li>3 学習のメカニズム</li> <li>4 記憶のメカニズム</li> <li>5 情動・意欲・動機づけのメカニズム</li> <li>6 心の発達</li> <li>7 防衛反応 (適応反応) と障害の受容過程</li> <li>8 性格、対人関係</li> </ol> <p>主として講義形式で行うが、グループワークや個人ワークも適宜行う。 グループワークや個人ワークを通して考え、理解を深める。</p>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
サイエンス社 コンパクト新心理学ライブラリ 1 「心理学」第2版 ～心のはたらきを知る～ 適宜、資料配布		定期試験の結果、授業態度、レポートの提出、及び出席状況等の総合評価により実施する。	

授 業 概 要			
授業のタイトル（科目名） ☆医療的ケア論 I		授業の種類 講義・演習・実習	授業担当者 花田 真維子
授業の回数 23	時間数（単位数） 45 (3)	配当学年・時期 2年次後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 高齢者および障害児・者を対象とした医療的ケアを医療職との関連のもとで安全・適切に実施できるよう必要な知識を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 保健医療に関する諸制度概要と医行為に関する法律、喀痰吸引と経管栄養について医療職と介護職との連携について理解する。安全な療養生活のための健康保持・清潔と感染予防について理解する。 喀痰吸引・経管栄養についての概要を知る。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 医療的ケアの実施に関する制度の概要及び医療的ケアと関連づけた「個人の尊厳と自立」、「医療的ケアの倫理上の留意点」、「医療的ケアを実施するための感染予防」「安全管理体制」等についての基礎的知識を理解する</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 人間と社会(介護職の専門的役割と医療的ケア、介護福祉士の倫理と医療の倫理)</li> <li>2 保健医療制度とチーム医療（医療的行為に関係する法律、チーム医療と介護職員の連携）</li> <li>3 安全な療養生活（リスクマネジメント、安全管理）</li> <li>4 清潔保持と感染予防（滅菌と消毒、スタンダードプリコーション、職員の感染予防）</li> <li>5 健康状態の把握・生命徴候の観察</li> <li>6 喀痰吸引の基礎知識（呼吸のしくみとはたらき、喀痰吸引が必要な状態と観察のポイント）</li> <li>7 喀痰吸引の基礎知識（喀痰吸引法、実施上の留意点）</li> <li>8 喀痰吸引の基礎知識（吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意）</li> <li>9 喀痰吸引の基礎知識（感染予防、危険と完全確認、緊急時の対応と連携）</li> <li>10 喀痰吸引の基礎知識（子どもの喀痰吸引、伴うケア、家族支援）</li> <li>11 喀痰吸引の実施手順（喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔操作と保持）</li> <li>12 喀痰吸引の実施手順（技術・留意点）</li> <li>13 喀痰吸引の実施手順（必要な根拠に基づくケア）</li> <li>14 喀痰吸引の実施手順（報告・記録）</li> <li>15 経管栄養の基礎知識（消化器系のしくみとはたらき、経管栄養が必要な状態と観察のポイント）</li> <li>16 経管栄養の基礎知識（経管栄養法、実施上の留意点）</li> <li>17 経管栄養の基礎知識（経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意）</li> <li>18 経管栄養の基礎知識（感染予防、危険と完全確認、緊急時の対応と連携）</li> <li>19 経管栄養の基礎知識（子どもの経管栄養、伴うケア、家族支援）</li> <li>20 経管栄養の実施手順（技術・留意点）</li> <li>21 経管栄養の実施手順（必要な根拠に基づくケア）</li> <li>22 経管栄養の実施手順（報告・記録）</li> <li>23 まとめ</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新・介護福祉士養成講座 第15巻 「医療的ケア」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発行 介護福祉士養成 実務者研修テキスト 第9巻 医療的ケア 第2版 一般財団法人 長寿社会開発センター 2017年発行		（試験やレポートの評価基準など） 出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） ☆医療的ケア論Ⅱ		授業の種類 (講義 <b>演習</b> ・実習)	授業担当者 花田 真維子
授業の回数 15	時間数（単位数） 30 (1)	配当学年・時期 2年次後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 高齢者および障害児・者を対象とした医療的ケアを、医療職との連携のもとで安全・適切にできるよう、必要な知識・技術を修得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 医療的ケア実施の基礎と「喀痰吸引」「経管栄養」に関する基礎的知識・実施手順について学ぶ。急変時の対応についての解説と演習。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 喀痰吸引について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解する。 経管栄養について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解する。 安全な医療的ケアが実施できるよう、確実な手技を習得する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 喀痰吸引法（口腔内吸引・鼻腔内吸引）</li> <li>2 喀痰吸引法（口腔内吸引・鼻腔内吸引）</li> <li>3 喀痰吸引法（口腔内吸引・鼻腔内吸引）</li> <li>4 喀痰吸引法（口腔内吸引・鼻腔内吸引）</li> <li>5 喀痰吸引法（気管カニューレ内部の吸引）</li> <li>6 喀痰吸引法（気管カニューレ内部の吸引）</li> <li>7 喀痰吸引法（気管カニューレ内部の吸引）</li> <li>8 経管栄養法（胃瘻・腸瘻による経管栄養）</li> <li>9 経管栄養法（胃瘻・腸瘻による経管栄養）</li> <li>10 経管栄養法（胃瘻・腸瘻による経管栄養）</li> <li>11 経管栄養法（経鼻経管栄養）</li> <li>12 経管栄養法（経鼻経管栄養）</li> <li>13 経管栄養法（経鼻経管栄養）</li> <li>14 経管栄養法（経鼻経管栄養）</li> <li>15 救急蘇生法</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
<p>最新・介護福祉士養成講座 第15巻 「医療的ケア」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年発行 介護福祉士養成 実務者研修テキスト 第9巻 医療的ケア 第2版 一般財団法人 長寿社会開発センター 2017年発行</p>		<p>出席率や課題レポート・授業態度、確認試験、演習の結果等の総合評価。</p>	